

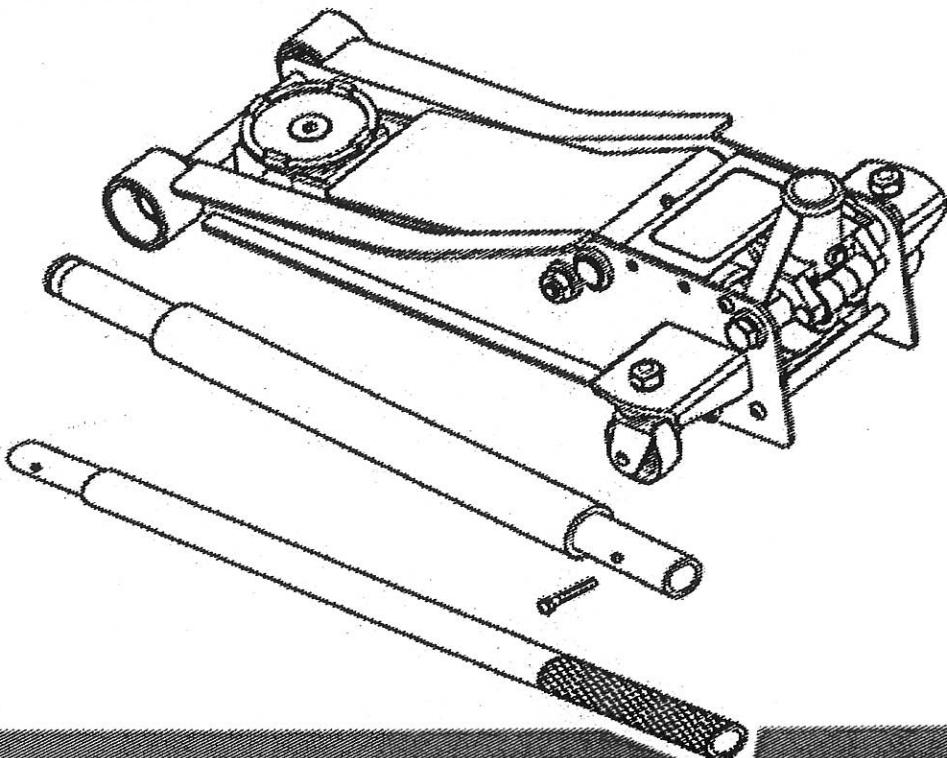
油圧式 ガレージジャッキ

ダブルピストン・ロープロジジャッキ

(3) t 最大荷重

取扱説明書

保証書付



必ずご使用になる前に、本マニュアルの安全・警告・注意事項を
詳しく読み、よく理解して正しくご使用ください。(お問い合わせの際
は、取扱説明書には保証書がついております。大切に保管してください。)

いつでも使用できるように大切に保管してください。

安全にお使いいただくために

危険

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が切迫して想定される内容をしめしています。

警告

この表示内容を無視して誤った使い方をした場合は、死亡や重症等の重大な障害に結びつく可能性があります。

注意

この表示内容を無視して誤った使い方をした場合は、人的障害や製品の破損、その他の物的損害へつながる可能性があります。

ご使用前の点検



☆下記項目を必ず確認してからご使用ください。

☆ご使用になる度に、正常に作動するか必ず確認してください

- ボディのゆがみ、錆び、亀裂、および各ネジのゆるみがないかどうか。
- ハンドルと本体との接合部分の確認、およびシリンダーのオイルもれがないかどうか。
- ポイント位置確認、および使用場所が平坦であるかどうか。

■ 使用上の注意

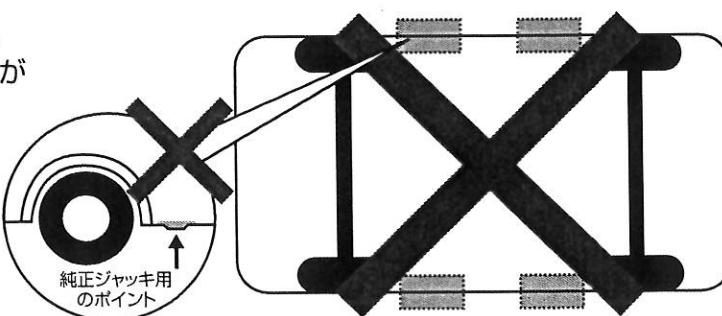
危険

**本製品を使用することによるケガや重大な事故を未然に防ぎ、
安全にお使いいただくために、下記の注意事項を必ずお守りください。**

- 本製品は自動車のタイヤ交換や整備のためのものです。本来の用途以外で使用しないでください。また、本製品を絶対に改造しないでください。
- ジャッキを使用する際は、車体の下や周りに人や物などがないことを確認してから作業を行ってください。また、ジャッキアップ中に車両の下に入らないでください。
- 本製品はジャッキアップするためにご使用いただくものです。ジャッキアップ状態を保持するためのものではありません。ジャッキアップした状態のままで保持させる際は、必ず別売のジャッキスタンドをご使用ください。**
- ジャッキを使用する前に、負荷のない状態でジャッキアップテストを行ってください。
- ジャッキに異常が見つかった場合(オイル漏れ、本体の変形等)は、使用をすぐに中止してください。そのまま使用すると重大な事故につながるおそれがあります。
- 最大荷重(3t)を超える負荷で使用しないでください。
- リリースバルブは適正な荷重になる様に出荷時に調整されているため、絶対にさわらないでください。
- リリースバルブを緩める際は半回転(180°)以上回さないでください。故障の原因となります。
- ジャッキアップした状態で車両から離れないでください。
- ジャッキアップする際は、必ず平らで固い路面の上で行ってください。
- ジャッキアップする前に、必ず車のサイドブレーキを引き、ジャッキアップしない方のタイヤに輪止めをしてください。
- ジャッキポイントは車種によって異なります。自動車に添付の取扱説明書、または自動車メーカー・販売店等へ問合せし、必ず事前に確認してください。
- 車両指定のジャッキポイントでジャッキアップする場合、ジャッキポイントの形状とサドルの形状が合っているかを必ず確認してください。形状が合わない場合に無理にジャッキアップするとジャッキポイントが破損するおそれがあります。
- 電子制御サスペンション車の場合は、必ず自動車に添付の取扱説明書を確認してからジャッキアップをしてください。

必ずジャッキポイントが適切な位置か確認してから
ジャッキアップしてください。また、ジャッキポイントが
わからない方は、使用前にカーディーラーおよび
整備工場で確認してください。

★純正ジャッキ用のポイント(右図 ■ 部分)で
本製品をしようすると、車両を破損させる
おそれがあります。このジャッキポイントでの
ご使用は絶対におやめください。



この取扱説明書では「危険」「警告」「注意」について次のような定義と警告表示を使用しています。警告表示は安全作業のために重要な事柄です。人身事故や財物損害防止のための重要な事項が記載されていますので、必ずよく理解してからご使用ください。



この表示を無視したり取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。



この表示を無視したり取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視したり取扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う可能性、或いは物的損傷が発生すると想定される内容を示しています。

■ その他の表示



この表示の記載内容は、ご使用になる上で非常に重要な内容を表していますのでジャッキをご使用になる前に必ずお読みください。

安全にお使いいただくために

■ 用途

本製品は自動車のタイヤ交換や整備の際に自動車をジャッキスタンドなどで維持させるために、ジャッキアップまたはジャッキダウンする目的で使用するジャッキです。本製品はジャッキアップ状態での洗車作業には使用できません。

■ 使用上の注意 ■ 重要



- ・製品本来の用途以外に使用しないでください。
- ・ジャッキアップした状態のままで車体の下には絶対に入らないでください。
- ・ジャッキを設置する際は、使用中に絶対にジャッキが外れない部分に設置してください。ジャッキアップしている対象物を破損させたり、対象物が落下するなどの危険性があります。
- ・ジャッキアップした車両の下へ手、足、身体を入れないでください。ジャッキアップした状態のままで維持させる場合は、必ずジャッキスタンドを使用してください。

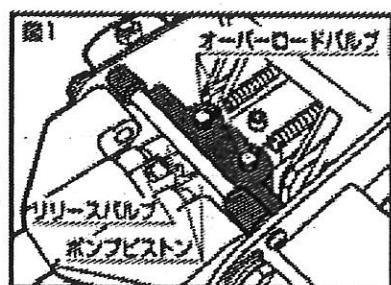


- ・取扱説明書をよく読み充分理解した上で使用してください。本書には重要警告事項の説明が記載されています。警告に従わずに使用した場合、重大な事故につながります。
- ・ジャッキを改造したり本来の用途以外の目的で使用しないでください。
- ・自動車をジャッキアップおよびジャッキダウンする際は自動車の下に人や物などがないことを確認してから作業をしてください。
- ・ジャッキに異常が発生した場合（オイル漏れ、変形等）、使用を中止して、異常箇所を完全に修理するまでジャッキを使用せず、直ちに販売店または弊社までご連絡ください。そのままご使用になった場合、重大な事故につながる危険性があります。
- ・オーバーロードバルブ（安全弁）は出荷時に安全荷重に調整されていますので調整などは絶対にしないでください。（図1参照）
- ・本製品でジャッキアップする際は、必ず事前にガレージジャッキ用のジャッキポイントの位置を確認してください。（ジャッキポイントの位置は車種によって異なりますので、詳しくは自動車メーカーへお問い合わせください。）
- ・ジャッキアップやジャッキダウン中にジャッキアップした物に振動や力を加えたりしないでください。
- ・本製品は平滑で強靭な地面でのみご使用ください。傾斜地や凹凸のある地面、軟弱な地面では使用しないでください。
- ・ジャッキは2台以上同時に使用しないでください。
- ・ジャッキの持ち運びやジャッキダウンする際、フレームなど可動部分で指などを挟まないようにしてください。

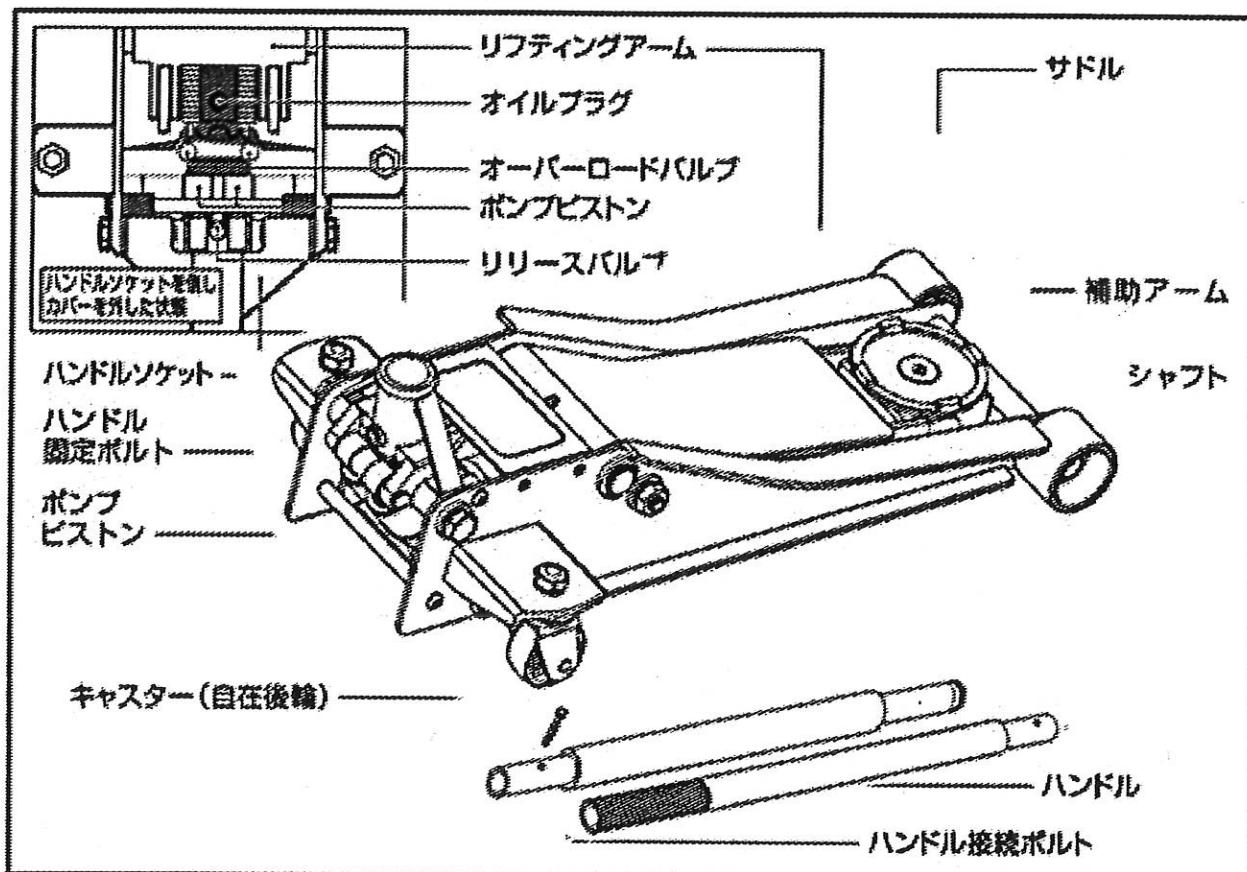
- ・電子制御サスペンション車は、必ず自動車に添付のマニュアルを確認してからジャッキアップ作業をしてください。



- ・本製品の能力(3t)以上の負荷で使用しないでください。
- ・必要以上に対象物をジャッキアップしないでください。
- ・本製品は-10°C~60°Cの範囲の温度環境で使用してください。
- ・業務目的での使用はしないでください。



各部の名称

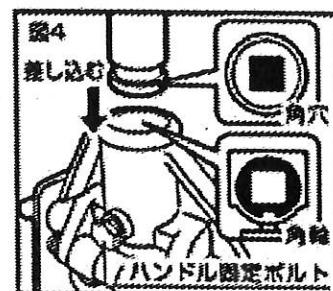
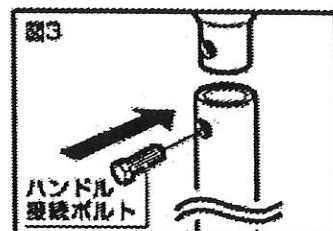
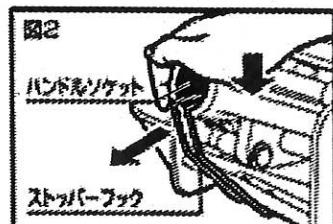


使いかた

- はじめてご使用になる前に**
- 重要**
- 1) ハンドルソケットを押さえながら、ストッパークリップを図2のように取り外してください。
※ストッパークリップを外さなければ本製品は使用できません。
※ストッパークリップを外した後で、急に手を離すとハンドルソケットが勢いよく跳ね上がりますので充分にご注意ください。
 - 2) 作業前にジャッキの点検を行い、異常の無いことを確認してください。
 - 3) 2本のハンドルを接続して、ハンドル接続ボルトをしっかりと締め付けてください。(図3 参照) ボルトが完全に締められていない場合、リリースバルブを完全に締めることができません。
 - 4) ハンドルをハンドルソケットに差し込み、ハンドル固定用ボルトをしっかりと締め付けて、ハンドルが抜けないことを確認してください。(図4 参照)

△ 注意

- ハンドルの角穴とハンドルソケット内部の角軸の向きを合わせてハンドルを差込んでください。
- ハンドルをひっぱり、ハンドルが抜けないことを確認してください。ハンドルが抜けた場合は、ハンドルの角穴とハンドルソケット内の各軸の向きを確認してください。



使いかた

■ ジャッキアップ

- 1) 平坦で堅い地面にジャッキを置き、ジャッキポイント[※]の位置を確認してサドルをセットしてください。

*ジャッキポイント：車体下部にあるジャッキのサドルを当てるための適切な場所（ガレージジャッキのジャッキポイントは車両によって異なりますので自動車に添付のマニュアルや自動車メーカーに確認するなど、事前に確認してください。）



注意

- 左右両輪をジャッキアップする場合は、反対側の車輪に必ずタイヤストッパーなどの車輪止めを使用してください。

● ジャッキアップは自動車のサイドブレーキをかけ、シフトはロー（A/T車は[P]パークリング）の位置で作業してください。

- 2) ハンドルを時計方向に回して、リリースバルブを確実に締め付けてください。（図5 参照）

*リリースバルブの締め付けが不十分な場合、ジャッキアップしなかったり、下がってきたりします

のでしっかりと締めてください。

- 3) ハンドルを上下に動かし、サドルをジャッキポイント付近まで上昇させた後に、一度停止させて荷重の中心がサドルの中央にかかることを確認してください。（図6 参照）

- 4) 確認後ハンドルを上下一杯に動かして、目的の高さまでジャッキアップしてください。

*地面からタイヤが離れ、作業ができる高さでジャッキアップを停止させてください。必要以上に

ジャッキアップすると車両の底盤構造になるばかりか、ジャッキポイントが変形したり、荷重バランスの崩れにより重大な事故につながります。

*ジャッキアップする反対側の車輪に車輪止めをしてください。



図5

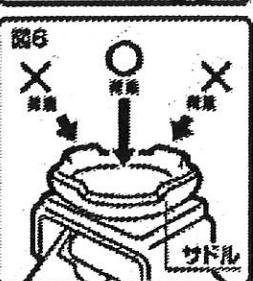
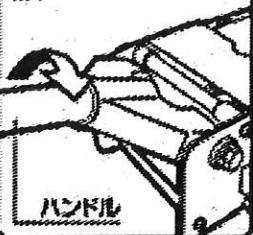


図6

【チェックポイント】

- ① 荷重の中心がサドルの中央にかかっていますか？ ② サドルの上昇にともなって、ジャッキが軽く移動していますか？
- ③ ジャッキアップ中に荷重の中心がサドルの中央からずれてきていませんか？



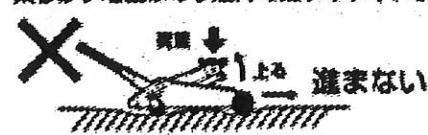
警告

- 傾斜地や地面が軟弱な場所、および平坦でない場所では使用しないでください。ジャッキが傾いたり、サドルが外れて自動車が落下し使用者が死亡したり重傷を負う危険があります。また傾斜地ではジャッキアップ中に自動車が動き出して重大な事故につながります。

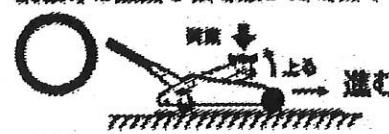
● 傾斜な地面（可）



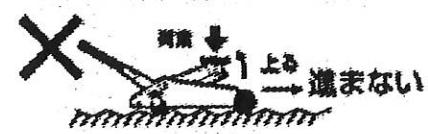
● 柔らかい地面はめり込んで進まない（不可）



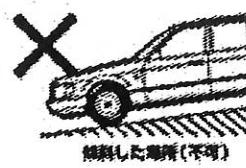
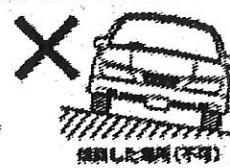
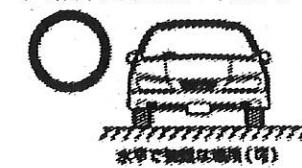
● 鋼板等の強固な板を敷いた場合（可）



● 凹凸な地面は前へ進まない（不可）

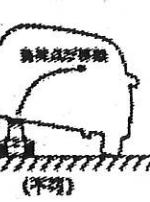
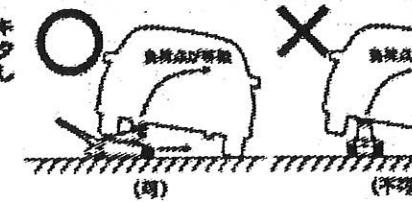
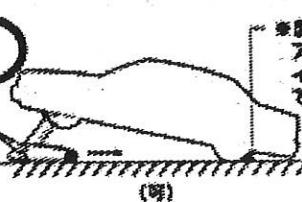


● 傾斜した場所や勾配のある道路では使用しないでください。



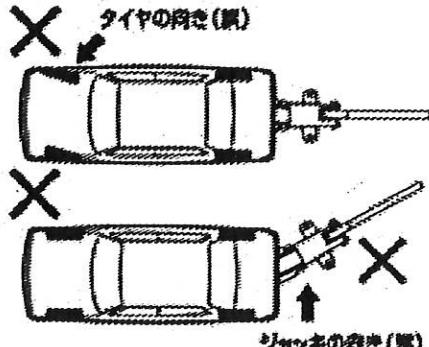
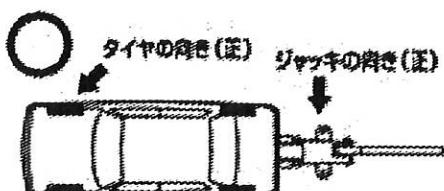
- ジャッキの昇降に合わせてジャッキの車輪が回転し、ジャッキが下図の矢印の方向に移動していることを確認してください。ジャッキが移動しない場合、ジャッキポイントからサドルが外れ、自動車が落下し使用者が死亡したり重傷を負う危険性があります。

*下のイラストは、サドル上昇時の移動方向です。下箭印は矢印の方向と逆の方向へ移動します。



- 自動車メーカーの指定するジャッキポイント以外では、ジャッキアップしないでください。車体が変形したり、荷重バランスの崩れにより重大な事故につながります。
※パンタグラフ用のジャッキポイントでジャッキアップしないでください。
- ジャッキアップの際は自動車のタイヤをまっすぐの状態にして、ジャッキを車体に対してまっすぐに入れてください。ジャッキの向きが斜めになっている状態でジャッキアップした場合、サドルがジャッキポイントから外れ自動車が落下し使用者が死亡したり重傷を負う危険性があります。

●車のタイヤは、車の横幅方向にて、
ジャッキを車にに対してまっすぐに
入れてください。



- サドルを上昇させて、サドルが車体に当たった時点で一度停止させて、サドルが車体のジャッキポイントの正しい位置(荷重の中心がサドルの中央にかかる位置)にセットされている事を確認してください。セットする位置がずれていた場合、車体が変形したり、荷重バランスの崩れにより重大な事故につながります。

△ 注意

- 荷物や人を乗せたままでジャッキアップしないでください。
- エンジンをかけたままでジャッキアップしないでください。
- ハンドルの上下操作はハンドルをしっかりと握って操作してください。ジャッキに異常が発生した場合、ハンドルがはね上がったり急に操作が軽くなることがあります、ケガをする可能性があります。
- 自動車メーカーの指定するガレージジャッキ用のジャッキポイント以外ではジャッキアップしないでください。車体が変形したり、荷重バランスの崩れにより重大な事故につながります。
※パンタグラフジャッキ用のジャッキポイントでジャッキアップしないでください。
- 電子制御サスペンション車は、必ず自動車に添付のマニュアルを確認してからジャッキアップ作業をしてください。

■一定の高さで維持する場合

ハンドルの上下動作を停止するとサドルが自動車を維持したままの状態になります。

△ 危険

- ジャッキアップした状態のままで車体の下には絶対に入らないでください。
車体の下に入って作業をする場合は必ずジャッキスタンドなどを使用してください。(P.6 関連商品参照)

△ 注意

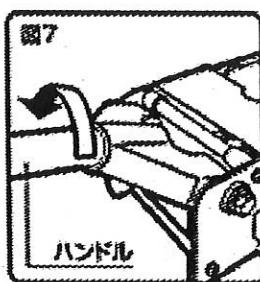
- ジャッキアップ作業中はリリースバルブに触れないでください。

■ジャッキダウン

ハンドルを反時計方向にゆっくりと回すとリリースバルブが緩み、サドルが下降します。
(図7 参照)

△ 危険

- リリースバルブを急激に緩めないでください。サドルが急激に降りるため、自動車が落下し使用者が死亡したり重傷を負う危険性があります。



△ 注意

- ジャッキダウンする際に、フレームなど可動部分で指などを挟まないように注意してください。
- 故障の原因になりますので、リリースバルブは完全に緩めた状態から1回転以上緩めないでください。オイル漏れや故障の原因になります。

■作業が終了したら

作業が終了したらサドルやリフティングアーム、フレーム、可動部分などに付着した泥、オイル、グリース、水滴などの汚れをきれいにふき取ってください。

メンテナンス

■ ジャッキのお手入れ

- 1) ジャッキを使用しないときは鎖などによる動作不良を防止するため、リフティングアームおよびポンプピストンを最下位の位置に下げておいてください。
- 2) ジャッキは常に清潔にして、可動部分に時々注油してください。
- 3) オイル量を定期的に確認し、オイルの量が減少している場合は適量を補充してください。
(下記ジャッキオイルの補充および交換 参照)
- 4) ひんぱんにご使用になる場合や長期保存の場合は、最高の状態を保持するために約1年毎にジャッキオイルを交換してください。(下記ジャッキオイルの補充および交換 参照)
- 5) 保管する際は、錆や動作不良などの故障の原因になりますので雨や雪がかかる場所や湿度の多い場所には保管しないでください。

■ ジャッキオイルの補充および交換

- 1) カバーを取り外し、オイルプラグを六角棒レンチで反時計方向に回して取り外し、リリースバルブを緩めます。
※リリースバルブは完全に緩めた状態から1回転以上緩めないでください。
- 2) オイルプラグの穴を下に向けて古いオイルを排出してください。
- 3) ほぼ完全にオイルを排出した後にジャッキオイル
専用作動油 をオイルプラグの穴に注入してください。
またオイル注入中にゴミなどが入らないように注意してください。
- 4) ジャッキオイルの適正量は、ジャッキを水平な場所へ置き、リフティングアーム
およびポンプピストンを最下位まで下げた状態でオイルプラグの穴から油面
まで約3mmの空間を設けた位置です。(オイルの適正量 参照)

オイルの適正量

ジャッキオイルの適正量は、サドルを最低位置
まで下げた状態で、オイルプラグの穴から、
油面まで約3mmの空間を設けた位置です。

(パワーユニット側面)



- 5) サドルが途中までしか上がらないときは、ジャッキオイルの不足が考えられます
ので、ジャッキオイルを適正な量まで補充してください。
- 6) 作業終了後はオイルプラグのOリングに薄くオイルを塗り、六角棒レンチで
オイルプラグを時計方向に回して本体に取り付けてください。

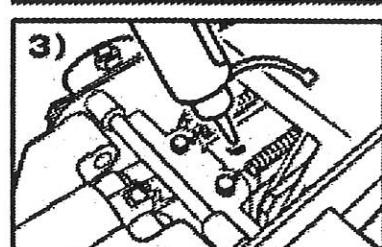
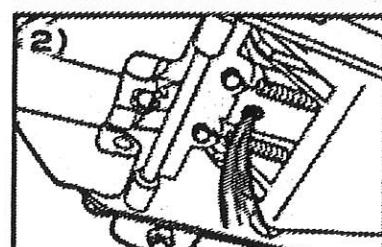
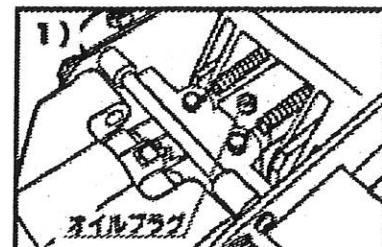
△ 注意

- ・作動油は石油系の物質であるため、過熱が良くなり火災しないよう火気から充分離れた場所で作業してください。
- ・ジャッキオイルは指定されたもの以外は使用しないでください。エンジンオイルやその他のオイルは粘度が異なるため作動不良の原因になりますので絶対に使用しないでください。

重要

作動油 ジャッキ用オイル(ISO VG10)

- ・ジャッキオイルの量が適正より多かったり少なかったりした場合、サドルが途中までしか上昇しません。
必ずリフティングアームを最下位に下げた状態でオイルプラグの穴から油面まで約3mmの空間を設けて
ください。(上段 オイルの適正量 参照)



■ エアー抜き

- 1) ジャッキを水平な場所へ置き、リリースバルブを緩めてください。
※リリースバルブは完全に緩めた状態から1回転以上緩めないでください。
- 2) オイルプラグを取り外してください。
- 3) ハンドルソケットをしばらく10回程度ポンピングしてください。この動作をすることによりパワーユニット内部に
入っていたエアーが抜けて正常に動作します。
- 4) オイルプラグを取り付けてください。(ジャッキオイルの補充および交換の「6」 参照)

■ オイルの強制循環

- 1) ジャッキを水平な場所へ置き、リリースバルブを緩めてください。
※リリースバルブは完全に緩めた状態から1回転以上緩めないでください。
- 2) 前輪のシャフトに足をかけ、手でリフティングアームを最高位までしばらく引き上げてください。
- 3) 2の動作を数回繰り返します。この動作を行うことによりパワーユニット内のゴミが強制的にオイルタンク内に
移動します。オイルタンクに設けられたゴミ除去ネットによりゴミが再びパワーユニット内に戻ることはあります。

製品仕様

改良のため、予告なく仕様を変更する場合があります。予めご了承ください。

品番：THJ-75
品名：ダブルピストン・ローブロッシャッキ
最大荷重：3t
最高位：505 mm

最低位：75 mm
幅：430 mm
本体サイズ：740 (L) X 360 (W) X 150 (H) mm
本体質量：32.2 kg

ハンドル長：1000mm(2本連結時)
使用環境：-10°C~60°C
作動油：ISO VG10
作動油量：205cc

故障と処置

故障かなと思われる前にもう一度この取扱説明書をよくお読み頂き、下記の点検をしてください。
点検をしても状態に変化がない場合は、お買い上げの販売店または弊社へご相談ください。

